

平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月2日

代表者 野口 隆子

研究課題名	幼児の発達評価と保育の質向上に関する縦断的研究
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	長田 瑞恵・加藤 陽子
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究では、第一に平成17年度からの発達評価の長期縦断的データを継続的に検討し、幼児期の発達と保育・教育との関連性を明らかにした。</p> <p>そして第二に保護者や保育者へのインタビューデータやアンケート調査を行い、移行期（幼児期から児童期、児童期後期の教育への移行、家庭から集団生活への移行）における問題点と適応について検討した。</p> <p>そして第三に、主に保育者へのインタビューデータに基づいて、保育の質と評価・改善、研修や保育者養成における教育方法に関する検討をおこなった。</p> <p>保育の質は構造の質（職員の教育や資格、クラス規模など）と過程の質（保育者、家庭の子どもへの関わりなど）、成果の質（子どもの発達など）など、分節化して捉える必要があるという（OECD、2006；秋田・佐川、2012）。</p> <p>今年度の研究では、ある特定地域を対象に10数年に亘りおこなった子どもの発達評価という保育の成果の質とその年次的経緯による変化、過程の質としての保育・家庭場面の影響の関連性と移行による変化を検討し、保育の質を高めるための研修や保育者養成課程における教育方法に結びつけるための実践的研究をおこなった。</p> <p>特に発達評価については、東日本大震災前の発達データと震災後の発達データとを詳細に比較し、共通点と相違点を明らかにすることを目指した。</p> <p>また、アンケート調査については、被災地だけでなく、直接的な被害を受けていない地域の保育者、保護者についても同様の質問紙調査を行うことで、震災から5年以上が経過した後の、各地の人々の意識の変化の有無や質的内容を検討した。</p>	
2. 研究の成果	
<p>1. 検討点1：発達評価の縦断的検討</p> <p>筆者を含む研究チームがこれまで行ってきたマークシート式の6領域128項目から成る発達評価を使用し、震災前の2004年3歳児クラス入園児と震災後の2011年3歳児クラス入園児の3学年分（3歳児クラス、4歳児クラス、5歳児クラス）の縦断データを比較検討した。その結果、震災後に入園してきた3歳児は、震災前に入園してきた3歳児よりも6領域すべてで低く評価されていた。それが1年経過した4歳児クラスでは反対に震災後に入園してきた子ども達の方が評価が高くなり、5歳児クラスになると領域によっては震災前後のコーホート間の差は小さくなる傾向があった。</p> <p>2. 検討点2：移行期の問題</p> <p>インタビューデータ、及びアンケートの自由記述部分の分量が多く、現在分析を進めているところである。</p> <p>3. 検討点3：保育者養成の教育方法に関する検討</p> <p>保育者へのインタビューデータから、保育対象児の年齢や、震災からの経過年数に応じて保育者が保育方法を見直し、改善に努めていることが明らかとなった。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

1. 日本保育学会 2017 年度大会発表予定(共同発表) 「環境変化による保育の変化が子どもに与える影響(8)—2013 年度と 2015 年度の 5 歳児クラスの比較—」(平成 29 年 5 月 20 日, ポスター発表)
2. 日本保育学会 2017 年度大会発表予定(共同発表) 「環境変化による保育の変化が子どもに与える影響(9)—2013 年度と 2015 年度の保育の自然環境に関する保育者意識の比較—」(平成 29 年 5 月 20 日, ポスター発表)
3. 十文字学園女子大学人間生活学部 2017 年度紀要 投稿中 (東日本大震災後の乳幼児の保護者と保育者の意識の変化—被災地ではない地域に焦点を当てた検討—)

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	平成28年度 プロジェクト研究費研究
研究課題名	幼児の発達評価と保育の質向上に関する縦断的研究
研究代表者	野口 隆子
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	長田 瑞恵 加藤 陽子

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	日本保育学会 2017 年度大会発表予定(共同発表) 「環境変化による保育の変化が子どもに与える影響(8)―2013 年度と 2015 年度の 5 歳児クラスの比較―」(平成 29 年 5 月 20 日, ポスター発表) 日本保育学会 2017 年度大会発表予定(共同発表) 「環境変化による保育の変化が子どもに与える影響(9)―2013 年度と 2015 年度の保育の自然環境に関する保育者意識の比較―」(平成 29 年 5 月 20 日, ポスター発表)	
発表予定		

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定	十文字学園女子大学人間生活学部 2017 年度紀要 投稿中(東日本大震災後の乳幼児の保護者と保育者の意識の変化―被災地ではない地域に焦点を当てた検討―)	

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名